



エルフ娘が触手生物に
産卵マシンにされるまで



ある日、エルフが住む集落のはずれにある聖域に薬草を採取しに来ていた
アイーシャは本来いないはずの魔物に襲われていた

ぎやああつ
な…なんで聖域に魔物がっ!?



次々と襲い掛かってくる触手の大した抵抗もできず
アイーシャは服を剥ぎ取られ拘束されてしまう

こんなところ
誰かに見られたら...

うっ...っ
抜けられな...っ



粘液にまみれた触手の形状を見て何をされるか想像した
アイーシャは何とか拘束から抜け出そうと抵抗する

針を生やした触手がアイーシャのクリトリスに刺さり
薬液を注入していく

痛っ…
あ…っ

んんう…うう…

一瞬の鋭い痛みの後、すぐに股間全体にしびれが走り
思わず甘いうめき声を上げてしまう





うう…
アソコがジンジンする…
何を入れられたの…??

だ…
だ…
だ…



痛っ…
やめてっ
入らないでっ…!

…
…
…
…
…

ぐち,

ぐちゅ,





腔内に侵入した触手は、アイーシャの卵巣を改造するため
麻酔で痛みを遮断しながら子宮内に侵入していく

なんで…っ
急に痛くなくなつて…!?

腔内で
動いてるっ…っ!?

…びっ
…びっ…っ!?

ポッ
ポッ
ブイ
ブイ

数十分後



触手が分泌した麻酔で痛みは弱い快感に変わり、卵巣を弄り回される
未知の快感に何百回と軽い絶頂を与えられアイーシャの意識は混濁する



長時間のイキ地獄で体力を使い果たしたアイーシャの意識は落ちていく



私...何を...されたの...?

...おわっ...
...た...?

ドロ...



意識を失っていたアイーシャは、触手がひしめく巢に連れ去られていた

……ん……
なに……?
んんん……

手足に触手が絡みつき身動きができない





ひっ...
な...何を?!

毒々しい液体を滴らせる針をもった触手が胸へと伸びていく

針が乳首に刺さりドクドクと液が注入されていく



んっっっ
うっっっ

なにを...して...
びりびりして
おっぱいが
どんどん張ってる...

アッ
アッ
トッ
トッ

アッ
アッ
トッ
トッ

液を注入された乳房の中で乳腺が急速に発達していき
小ぶりの乳房がどんどん膨らんでいく

ふ...うう...
あぐううう

おっぱいの中で
何か動いてる...っ!?

うああ...
わけわかんないよお...

同時に胸全体に走る刺激に快感を覚え股間から愛液が滴り始める





怖い...私の体
どうなっちゃったの?

ああ...っ
何これ
なんてこんなに大きっ...っ

はあ...
はあ...っ

感度が極限まで高まった乳首に針が刺さり、想像以上の快感に嬌声をあげてしまう



絶頂により胸の筋肉が勝手に収縮し乳腺が圧迫され母乳が噴き出す



何も考えられなくなったアイーシャは、強く残る余韻を感じながら
気を失っていく





アイーシャが目を覚ました時目に入ったのは見たことないほど大きくなった乳房と何倍にも膨れ上がったクリトリスだった

おっぱい...





混乱しているアイシーシャのクリトリでた細い触手が絡みつく

うぐっ!?

きん



凄まじい快感がクリトリスから駆け上がってくる

絡みついた触手は容赦なく肥大化したクリトリスをしごき始める

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ!?

ひあゝ

あゝあゝあゝ



改造された卵巣で作られた卵が、度重なる絶頂による子宮や膣の収縮で押し出されて来る

なに...? なにか出てくる...っ!?

イッ
キッ

卵子
スリッ



卵を産み落としたことによりようやく触手から解放される



数日後



あれからどれほど日が過ぎたかもわからない
気絶するほどの絶頂を繰り返し、また目覚めるをくりかえす

アイーシャの精神は擦り切れ、触手の卵を産み続けるだけの
機械のようになっていた



日々、子宮内に卵が出来上がる頃合いに様々な手段で産卵をさせようと触手が伸びてくる

…ひび…
…あ…ふ…

クリトリスに触手が伸びていく様を見るたびに
アイーシャは恐怖した表情を浮かべる





触手はアイーシャのクリトリスを根元まで飲み込み強く吸い上げる

身体を作り変えられ卵を産み続けるだけの機械になったアイーシャ

エルフという長寿種の永い生をここで過ごすことになる



